

本論文は

世界経済評論 2021 年 5/6 月号

(2021 年 5 月発行)

掲載の記事です



世界経済評論 定期購読のご案内

年間購読料

1,320円×6冊=7,920円

6,600円

税込

17%

送料無料

OFF

富士山マガジンサービス限定特典

※通巻682号以降

定期購読
期間中

デジタル版バックナンバー読み放題!!



世界経済評論 定期購読



☎0120-223-223

[24時間・年中無休]

お支払い方法

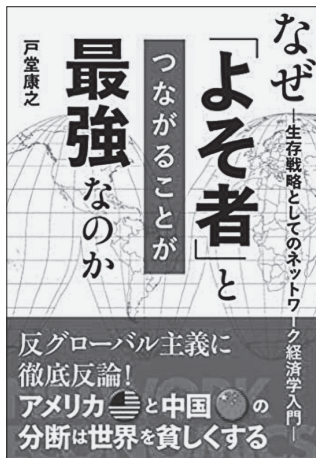
Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp
雑誌のオンライン書店

なぜ「よそ者」とつながることが最強なのか

：生存戦略としてのネットワーク
経済学入門

杏林大学名誉教授 馬田 啓一



[著者] 戸堂康之 (とどう やすゆき)

早稲田大学政治経済学術院経済学研究科教授

[発行] プレジデント社, 2020年12月刊

[判型] 46判, 240ページ

[定価] 本体1700円+税

深刻化する米中デカップリング（分離）や新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、グローバル化への風当たりが一段と強くなっている。グローバル化が終焉を迎えたといった論調も勢いを増しているが、果たして本当にそうなのか。ネットワーク経済学の理論とデータを基に、反グローバル主義への徹底的な反論を試みたのが本書である。

題名や各章のタイトル、小見出しは出版社編集部意向に従って軟らかめにしているが、内容は実にまじめなもので、RIETI（経済産業研究所）におけるいくつかの研究プロジェクトを含め、この10数年の著者の研究をまとめた高度で奥行き深いものとなっている。

本書は8つの章から構成されている。グローバル化で経済は成長するのか？（第2章）、反グローバル化は人間の本能か？（第3章）、グローバル化によって所得格差は拡大するか？（第4章）、グローバル化で「対岸の火事」が飛び火するのか？（第5章）、グローバル化は国家安全保障の脅威となるか？（第6章）など、重要かつ興味深い論点を取り上げられ、非常に示唆に富む多くの指摘と、エビデンスにもとづく説得力のある主張が行われている。

本書の説明によると、グローバル化とは、まさに「よそ者」とつながることである。人間は古来、よそ者につながることで、新しい知識や情報を得て、イノベーションを起こし発展してきた。これを停滞させることは、人間の発展を阻み、我々の暮らし向きを劣化させることではない。

したがって、問題は、グローバル化によって起きるマイナス面、つまり雇用の喪失や所得格差の拡大、経済危機の連鎖、安全保障への脅威などをどうやって解決するかであり、本書は、これらの問題に対する解決策を提示している。

なぜ「よそ者」とつながることが最強なのか。そのヒントは、日本経済再生のカギは何か？（第8章）という問いに隠されている。本書は、よそ者とならうという「冒険心」を持つことが大事だと説く。日本経済はグローバル化することで経済的低迷から脱出することができ、逆に、グローバル化に背を向ければ経済の縮小が続いて「途上国化」してしまう。

もちろん、よそ者とならうことには様々なリスクが伴う。しかし、そうしたリスクは、国内外の様々な企業との取引を広げて多様なネットワークを構築すれば、最小限に抑えることもできる。つまり、グローバル化のリスクは確かにあるが、それを小さくする方策もまた存在している。逆説的だが、グローバル化のリスクにはさらにグローバル化することで対処が可能である。だから、グローバル化が最強の生存戦略なのだ。

コロナ禍や米中デカップリングに翻弄されるグローバル化の行方を読み解くのに、参考にするべき価値ある本である。是非一読することを勧めたい。

(うまだ けいいち)